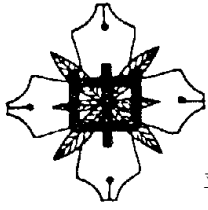


【教育目標】 将来をみつめ「学び考える力」「自他を大切にできる心」「たくましく生きる力」を育てよう



十中だより

平成28年 9月9日 発行 第16号

発行者:中野区立第十中学校

リオ五輪雑感

東京で夢の続きを…

9月1日、始業日。全校集会では今夏に開催されたリオデジャネイロオリンピックにちなんで、「真の金メダリスト」について講話を行った。(詳細はお子様から…)

そのリオ五輪だが、海外で開催されたオリンピックの中で今回ほど日本人選手の活躍に歓喜し、感動の物語に酔いしれた大会もなかった。

最終種目の鉄棒で大技を連続で決めて大逆転した体操男子個人総合の内村航平選手。最も過酷と言われる競泳男子400m個人メドレーで他の選手を置き去りにし、期待通り金メダルを獲得した萩野公介選手。デンマークとの決勝戦、敗退寸前に追い込まれながら5連続得点で逆転勝利を果たしたバドミントンの高松ペア。過去1勝9敗の難敵に打ち勝ち、日本に96年ぶりのメダルをもたらしたテニスの錦織圭選手。バトンパスを極め、王者ジャマイカに食らいつき世界に衝撃を与えた陸上男子400mリレー。残り時間わずか銀を金に変え、日本に神が宿ったと思わせた女子レスリングの登坂絵莉、伊調馨、土性沙羅の各選手。日本人はこんなにも強かったのだと誇らしかった。

日本人選手の活躍は枚挙にいとまがないが、一方で涙の物語もたくさんあった。

重圧を背負い4連覇に挑むも夢阻まれ、「ごめんなさい」と泣いて謝る女子レスリングの吉田沙保里選手。それを観客席で少女のように泣きながら見つめる後輩の登坂絵莉選手。準々決勝の日本人対決に敗れ、「悔しいです」と涙を流したバドミントンの山口茜選手。そして、万感の涙にむせび、「本当に苦しいオリンピックでした」と心中を明かした卓球福原愛選手。いずれも美しい涙だった。

全日程を終え、閉会式では勝者と敗者の区別もなく、敵意や憎悪もなく、国籍、人種、肌色、宗教、言葉、文化、性別の違いを超えた選手たちの笑顔にあふれた平和な世界があった。1964年東京五輪の閉会式を担当したアナウンサーは、「世界の平和、人類の平和とは、こういうものであろうと、胸の熱くなる瞬間であります」と感動で声をつまらせながら実況したが、半世紀前と全く変わらない夢のような平和な世界である。



人類は4年に一度、夢を見る ——

当時公開された記録映画「東京オリンピック」(市川崑監督)はそんな字幕で終わる。

雨に消えゆく聖火を見ながら、4年後、東京で夢の続きを見たいと思った。

オリンピックは街を変え、国を変え、そして、人を変える力をもっている。

4年後、高校生や大学生、或いは社会人となる十中生にとって、2020年東京オリンピック・パラリンピックが、得がたい貴重な機会となり、かけがえのない生涯の財産となることを願って9月の巻頭言としたい。



十中生 ボランティアとして活躍

夏休み期間中に十中生が地域行事でボランティアとして活躍しました。

7月30日(土)、塔山小学校において開催された東部地区委員会主催の「縁日だよ!全員集合!」でも、十中生18名がボランティアとして活動しました。十中生は食事作りやわくわくランド、スーパーボールすくい等を担当するとともに、地域の子供たちのお世話をして「縁日だよ!全員集合!」の運営を陰から支えてくれました。

この日は、最高気温33度を超える真夏日でしたが、汗を光らせながらボランティアとして一生懸命活動している十中生を大変誇らしく思いました。

また、8月4日(木)、12日(金)には十中生がさくら館「ぼぼたんルーム」に遊びに来ていた乳幼児親子と一緒に楽しい時間を過ごしました。

はじめは緊張した様子でしたが、お母さんから赤ちゃんを抱っこをさせてもらった後は、赤ちゃんとすっかり仲良しになりました。お母さん方からは、「お姉さんに遊んでもらえてよかったね!」と喜びのことばをいただきました。



吹奏楽部、都吹奏楽コンクールで銀賞！

8月3日(水)、吹奏楽部は練馬文化センターで行われた東京都中学校吹奏楽コンクール「東日本部門」に出場し、銀賞を受賞しました。

コンクール5日目の7月29日には本番を想定し、蒸し暑い体育館で自由曲「アベージュ・アルカンシェル(作曲福島弘和氏)」を演奏し、先生方は聴衆となって演奏に聞き入りました。本番では、これまでの練習成果を十分に発揮し、迫力のある演奏を披露しました。審査結果は銀賞でしたが、金賞にも劣らない立派な演奏に会場から大きな拍手がおくられていました。

当日は、吹奏楽部員の保護者、卒業生、そして卒業生の保護者までも会場に駆けつけ、十中吹奏楽部を応援してくださいました。

3年生が部活動を引退する中、吹奏楽部の3年生は今後も活動を継続し、各種地域行事や連合音楽会に参加します。

今後の活躍に期待します。



防災講演会・地域班活動を実施

9月1日、災害時における適切な行動や災害ボランティアについて学習し、防災意識を高めることを目的に防災講演会を実施しました。

ご存知の通り9月1日は、93年前の1923年に190万人が被災、10万5千人余りが死亡あるいは行方不明になった関東大震災が発生した日であり、1960年に「防災の日」に指定されました。

今年、十中では一般社団法人「防災教育普及協会」の事務局長宮崎賢哉先生をお迎えし、「いのちを守る防災活動～いま、そして災害時に中学生にできること～」をテーマにご講演をいただきました。

いざという時に助けられる側でなく、助ける側の中学生であるためには、何よりも普段からの心がけと行動が重要であることを学びました。

奇しくもその日、読売新聞朝刊には宮崎先生の「あなたと家族の命を守る正しい備えと心構



えを」というタイトルの記事が載っていました。要点は、

- 1、自分の身は自分で守ることを常に意識する。
- 2、最重要な3つの備えは、「トイレ」「食事と水分」「プライバシーと睡眠」
- 3、非常時の行動3原則は、「疑わしいときは行動せよ」「最悪事態を想定して行動せよ」「空振りには許されるが、見逃しは許されない」

というものでした。

防災講演会終了後には、いざという時の自助・共助のきっかけ作りと地域防災を担う人材の育成を目的に、地域の方々と交えての地域班活動を行いました。

地域班活動に参加された地域の方からは、「こうした取組みを中学生が行うことには大変意義がある。今後は、より多くの地域の大人が参加して、中学生と一緒に地域防災について考えてほしい」という感想をいただきました。



☆ 漢字検定 ☆

○ 準 2 級

阿部 直矢(3)、加藤 邑之丞(3)
坏 美空(3)、塘崎 天昂(3)
仲村 望(3)、西浦 兼世(3)

○ 3 級

赤星 明衣(2)、河野 知帆(2)
中林 瑤(3)、福岡 萌(3)
柴草 美吹(3)、野村 日向子(3)

○ 4 級

加賀谷 亘(2)、亀井 美桜(2)
中林 唯(2)
井山 もも子(2)、大平 麗愛(2)

○ 5 級

西尾 侑(1)

☆ 英語検定 ☆

○ 準 2 級

森田 馨(3)、大戸 優(3)
中林 瑤(3)、安仲 航平(3)
金 佳誼(3)、関島 志帆(3)

○ 3 級

二階堂 詩(2)、牧野 雅憲(2)
加藤 邑之丞(3)、寺島 若葉(3)
小林 暖(3)、島上 陽(3)
三神 優鯉(3)

○ 4 級

久保田 瑞生(2)、中林 唯(2)
小笠原 瑠星(2)、濱中 大勢(2)
渡辺 菜央(2)